

# おしえてドクター 頭痛と脳卒中

頭痛は多くの人を経験する症状で、日本の人口の40%が頭痛を持っている、あるいは悩んでいるといわれている。頭痛といってもそのなかには、生命に関わる「怖い頭痛」も含まれる。怖い頭痛は、くも膜下出血を代表とする脳卒中。兵庫県尼崎市のとみた脳神経クリニックの富田洋司院長は、「頭痛と脳卒中をよく知り、脳卒中を予防しよう」という。いろいろな頭痛の症状や予防、治療について富田院長に話してもらった。

とみた脳神経クリニック

富田 洋司院長



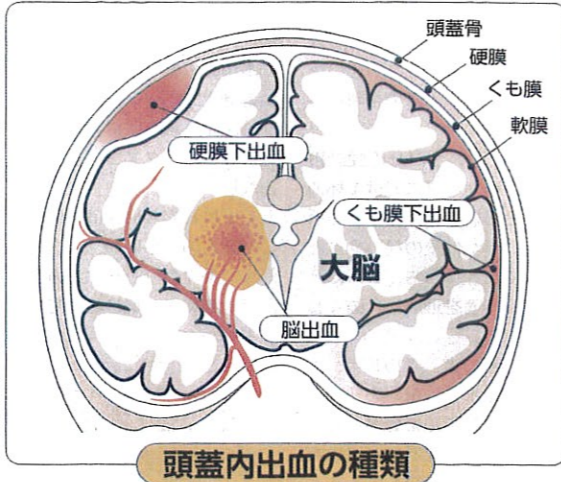
とみた・ひろし 昭和58年神戸大学医学部卒業。平成2年同大大学院医学研究科修了。神戸大学医学部臨床教授、新須磨病院脳神経外科部長、淀川キリスト教病院脳神経外科主任部長を経て24年同クリニックを開院。

## 大半は生命に関わらない1次性頭痛

頭痛は日本人の約40%にあたる5千万人が発症していると思われ、頭痛を分類すると、多くは頭などに明らかな病気がないといわれ、1次性頭痛と、少

## 生命に関わる2次性頭痛

2次性頭痛は大きく分けると、生命に関わる頭痛と、そうでない頭痛があります。前者は脳腫瘍や外傷による頭蓋内血腫、脳血管の障害である脳卒中、くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、動脈解離などのとき、①今まで経験したことのないほど強い②いつもと様子が異なる③頻度と程度が増える④50歳以降に初発する⑤片頭痛や二日酔いのときの頭痛が含まれます。一般的に生命に関わる2次性頭痛を強く疑う頭痛は、このような怖い頭痛を起す病気のなかで、最も気を付けなければならぬのは、頻度や発症様式から考えると脳卒中だといえます。脳卒中は死に原因の第4位で、寝たきりの原因の第1位になっています。



頭蓋内出血の種類

また、元気な人が突然発症することも多く、その対応が医学的にも社会的にも問題となつています。脳卒中は血管が破れて起る出血性の病気と、血管が詰まって起る梗塞性の病気に分かれま

頭痛	頭痛の分類
1次性頭痛 (頭などに明らかな病気がない機能的頭痛)	生命にかかわらない頭痛(生活支障度が問題) 緊張型頭痛 片頭痛 群発頭痛 その他
2次性頭痛 (頭などに明らかな病気がある器質的頭痛)	生命にあまりかかわらない頭痛 軽い風邪 二日酔い その他 生命にかかわる頭痛 脳卒中(くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、動脈解離) 脳腫瘍 外傷性頭蓋内血腫 その他

なくとも頭に何らかの原因がある「2次性頭痛」があります(表)。1次性頭痛の「緊張型頭痛」や「片頭痛」は普通、生命に影響することはありませんが、生活上の支障が発生し、問題になることがあります。緊張型頭痛は、人口の22%もあり、頭や頭が首、肩の筋肉が緊張すると発症

# しびれる、ふらつく…怖い頭痛

血(脳内出血)と、脳表面の軟膜とくも膜の隙間に出るくも膜下出血があり、また、(図)頭蓋内出血の種類。脳出血は脳内の小さな血管から出血し、突然の頭痛や感覚障害、言語障害など、脳が濡れた場合の症状も見られることが多い病気で、早期の診断治療が非常に重要になります。くも膜下出血は脳の表面の太い血管から出血し、頭痛や感覚障害はありますが、まひや感覚障害、言語障害などの、脳の症状はあまりありません。典型的な強い頭痛が起れば診断が容易ですが、出血が少ないときは、それほど強い頭痛でないため放置されることが多くあります。再出血の可能性が極めて高くなります。再出血すると約90%の人が死に至ります。早期の診断治療が非常に重要になります。梗塞は血管が詰まり、酸素や栄養素が届かないために脳が死んでしまう状態です。梗塞は大きく3つに分類されます。ひとつは、脳の中を走る穿通枝が詰まるラクナ梗塞です。高血圧と関連が深いといわれています。次に、動脈硬化などにより大きな血管が詰まるアテローム血栓性脳梗塞があります。比較的大きな範囲で脳梗塞を起します。高血圧に加え、糖尿病、高脂血症、喫煙も危険因子です。最後に、心臓から血栓が飛び、脳血管を詰まらせる心原性脳梗塞です。突発的で重症になります。高齢者で多い心房細動などが原因となり、その発生頻度も年々増加しています。

## 脳卒中は血管の病氣 早期発見・予防を

脳の病氣は早期発見や予防が大事です。その理由としてあげられるのは、脳はいったん傷つくと、再生せず、その傷が残るからです。そのため、脳卒中は発症してしまつて完治するのは20%しかありません。脳卒中は血管の病氣です。予防は「血管を大事に使う」ことです。大事に使うといつても高血圧、糖尿

るといわれています。また、片頭痛は名前で判断すると、片側だけと思いがちですが、両側性もあります。典型的な症状では、拍動性の強い痛みが、ときには吐き気などを伴って数時間から数日続きます。予防は、まずストレスや疲れすぎなどの誘因を防ぐことが大事ですが、ひどい時には予防薬もあります。発作が起きた後では、治療薬として極めて反応が良く、病院で処方する5種類のトリプタン製剤が開発されています。治療のタイミングなど条件が合えば効果的です。1次性頭痛の鎮痛剤が多く市販されていますが、服用方法に注意が必要です。1カ月10回以上、3カ月以上飲み続けることで、脳が痛みに敏感になってしまい、頭痛の回数が増える「薬物乱用頭痛」になることがあります。薬の飲みすぎはお勧めしません。